

事業分類		<input checked="" type="checkbox"/> ソフト <input type="checkbox"/> ハード <input type="checkbox"/> 必需		公的関与 9		作成日		30年 6月 29日		
事務事業名		農産物加工処理センター経費				シート作成部署				
総合計画上の位置付け	基本施策	5 賑わうまち				課名	産業課	係名	産業振興係	
		5-1 働きがいのあるまちをつくる				シート作成者				
	施策	5-1-1 農業の振興				予算費目	会計	一般		
							款	6		
主要施策	③ 地域特産物の開発				項		1			
					目		3			
個別計画名										
住民との関わり		住民の自主活動に対する支援（「場」の提供、資金援助、情報提供）								
事業の対象・目的・内容	対象（誰を、何を）			目的（どういう状態にしたいのか）						
	住民			農産物の加工を通じて、町内産農産物の消費拡大及び地産地消の拡大を進めます。						
事業内容（どのような方法で、何を行うのか）		自家用みそづくり講習会…農産物の消費拡大及び加工の普及啓発を図ります。 （三重北農業協同組合営農指導員指導）								
事業期間		昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 年度 ~ 平成 年度（ 年間） <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし								
根拠法令・要綱等		東員町農産物加工処理センター利用管理規則								
		平成28年度（決算）		平成29年度（決算）		平成30年度（予算）				
全体事業費（千円）A+B		0		560		1,231				
財源内訳	国庫支出金		0		0		0			
	県支出金		0		0		0			
	地方債		0		0		0			
	その他特定財源		0		0		0			
	一般財源		0		560		241			
直接事業費（千円）A		0		560		241				
人件費（千円）B		0		0		990				
内訳	一般職員（人・千円）		0.00 人	0	0.00 人	0	0.15 人	990		
	臨時職員（人・千円）		人	0	人	0	人	0		
成果指標	成果指標名			単位	29年度		30年度	31年度		
					目標	実績	(目標)	(目標)		
	①	自家用みそづくり講習会参加者数		人	30	23	30	30		
	②									
③										
説明		募集定員数を指標としています。 施設の利用促進及び地元みその普及啓発等を含め、事業展開に努めます。								

評価項目の説明	チェック項目		一次の評価又は説明	
	一次	二次	一次	二次
必要性	1. 事業開始時の目的を概ね達成するなど実施意義が低下している。 2. 社会情勢の変化など時の経過とともに事業開始時の目的が変化してきている。 3. 利用者、対象者の減少など住民ニーズの低下傾向がみられる。 4. 住民ニーズを上回るサービス提供となっている。 5. 国や他市町と比較するとサービスの対象や水準を見直す余地がある。 6. 国や県のサービスと重複している。 7. 民間のサービスと競合している。 8. 厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない。	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	施設を利用して、町内産農産物の消費拡大等の啓発活動には貢献しているものと考えます。
有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。 2. 施策への貢献度が著しく高いとはいえない。 3. 施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。 4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	施設を利用しての事業について、施設規模から少人数での事業に限定されることが課題です。
達成度	1. 事業開始時の目標設定に比べて進捗状況が劣っていると思う。 2. 事業開始時の目標に比べて成果があまり上がっていないと思う。 3. 概ね目標を達成していると思う。 4. 十分に目標を達成していると思う。	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	食農推進事業も当該施設を利用して開催していますが、利用頻度は向上していない状況です。今後は当該施設のあり方について改善する必要があります。
効率性	1. 効果に比べてコストが高い（他市町や類似業務を行う民間に比べて）。 2. 現在の事業実施主体の他に効率的に事業を実施できる主体がある。 3. 他の実施主体のノウハウを活用できる。 4. 他の実施主体を活用しても公平性・公正性等が担保され、行政責任が問われない。 5. 事業実施している人員、手段等の見直しによりコスト削減の余地がある。 6. 電子化等の事務改善によりコスト削減の余地がある。 7. 契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	施設の利用頻度は向上しているものと思えます。

本事務事業の実施適切性の説明

農産物の消費拡大には有効な施設ではありますが、施設規模等から少人数での事業に限定されることが課題です。農産物の消費拡大及び加工実習の普及を図るため、「自家用みそづくり講習会」に取り組み、地産地消の拡大を図っています。
 しかしながら、昭和57年に供用開始された当該施設につきまして、設置当初は住民の利用も多くありましたが、その後の社会情勢の変化により、住民のニーズに適合しなくなり、現在では有効な利用方法が見出せない状況となっています。

評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	
	2	2	2	1	^⑧ B	^⑦ A
⑥				^③ D	^④ C	
②				^⑤	^⑥	
⑧						
一次評価	休・廃止		見直し	継続	拡大	
今後の方針	○					
今後の改革・改善目標	施設を有効に活用するために、毎年開催する「自家用みそづくり講習会」に加え、食と農を両立する「食農推進事業」を実施しています。今後は、本施設の本来の目的である農業者自らが農産物の加工を通じて、商品化への開発・研究ができるよう農業生産者の経営安定を図る施策を構築する必要があります。また、36年経過した施設の状況についても施設整備支援員の助言・指導を求める必要があります。					

評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	
	2	2	2	1	^⑧ B	^⑦ A
⑥				^③ D	^④ C	
②				^⑤	^⑥	
⑧						
二次評価	休・廃止		見直し	継続	拡大	
今後の方針	○					
コメント	安全・安心な農産物加工品を生み出す場として幅広く活用されることが重要です。今後は、地元生産者を確保し、地域農業の維持・発展など、地産地消の効果を上げる施策を構築、実践する必要があります。					

二次評価に対する課の考え方

参画協働の今後の方針 いつから 平成 年度から 4 住民（利用者）も運営等に参画していく